

第129回日本小児科学会報告 2026.4月 下関

(※は平井のコメントです)

アナフィラキシー：呼吸症状・皮膚症状が基本だが、皮膚症状なくともありうる。3大原因は薬、虫、食物。食物原因の死亡は比較的少ない。アドレナリンの点鼻製剤が出た（ネフイー）エピペンと共に緊急時に使用できるようになる。

アレルギー記載義務の食品：カシューナッツが加わり、9種類になった。あとは卵・乳・小麦・そば・エビ・カニ・クルミ・落花生。

こどもの睡眠時無呼吸症候群：睡眠の質が悪くなり、昼間に多動になることがある。ADHDの症状があれば、扁桃肥大・睡眠の質の確認も。

扁桃肥大の手術：被膜内口蓋扁桃切除術が開発された。従来の手術よりも術後ののどの痛みや出血リスクが劇的に少ない。

(※ 平井はこどもの頃知らないうちに扁桃線を取られました。)

過活動膀胱(夜尿)の新しい治療薬： $\beta 3$ アドレナリン受容体作動薬(小児は現在適応外)

夜尿：眠りが深いというより、睡眠の質が悪いためになる。REM睡眠が延長する。

(※ 今まで眠りが深いからと言っていました。ごめんなさい。)

眠りの質と学業成績には相関がある。

(※ 睡眠の質をよくする方法があります。ご相談ください。)

メラトニン：睡眠への導入、概日リズムの調整に効果ありますが、成人では慢性疼痛改善する効果もあります。

スマホなどのブルーライト(470nm位)メラトニン分泌を強力に抑制するので睡眠の質を下げます。

寝だめ：social jet lag 時差ぼけと同じです

麻しんの流行：日本では今年300-400人確認され、排除認定が取り下げられた。排除認定は達成よりも維持が困難。



ヨーロッパでのジフテリア：2025 にはウクライナからの移民により流行った。
(※ 3 種混合、4 種混合、5 種混合ワクチンなどを接種していれば大丈夫です。)

COVID-19 の死亡：日本では 2022 がピーク。英米の 1/6 (人口比)。2020-21 にワクチンで抑えられていたから。若年者が協力して高齢者の死亡を減らしたが、若者の自殺が増えた。

北欧では高齢者対策を日本ほどはせず、高齢者が亡くなったが、年をとれば亡くなるものだという国民性。

I g A 腎症：血尿のみで蛋白 (-) なら検尿フォローでもよい。両方あれば病院紹介。診断は腎生検だが、ハードルが高い。

ベピオウォッシュジェル：新しいニキビの薬、顔全体につけ、5-10 分後に洗い流す。9 歳から使える。

ネット依存：人口の 5-10%。2 時間やるとやめられなくなる。依存の定義は、楽しい・疲れない・飽きない。脳への成長に害がある。ネット依存のリスクは①母が 2 時間以上ネット、②父が 2 時間以上ネット、③親子の約束事なし。親子の会話がカギ。

花粉症：頻度は①スギ②イネ③ヨモギ④ブタクサ。ヨモギとブタクサは共通抗原性が高く、症状が下気道に及び。

吃音：連発・難発・伸発がある。環境調整法が良い。

座薬の保存：ダイアップ・ナウゼリンは室温で OK。 他は冷蔵庫が望ましい。

F P I E S (食物蛋白誘発胃腸炎症候群)：食後 1-4 時間してから嘔吐などの症状が現れる。1-2 時間で消失する。原因の食べ物には卵黄が多い。診断が確定されたら完全除去が原則。細胞性免疫なので、エピペンや抗ヒスタミン剤は効かない。卵黄 F P I E S は殆ど 2-5 歳で自然に治る。

平井こどもクリニック

